

2023 年 4 月 30 日

世界の人びとのための JICA 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	ガーナ共和国セイチェレ村「村おこし」事業 2022 (チャレンジ枠)
(2) 実施団体名	国際 NGO ViVID
(3) 実施期間	2022 年 5 月 9 日～2023 年 3 月 31 日
(4) 実施国	ガーナ共和国
(5) 活動地域	アシャンティ州 セイチェレクマウ郡 セイチェレ村
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>当事業のターゲットコミュニティであるセイチェレ村は、ガーナのアシャンティ州セイチェレクマウ郡に位置し、人口 5,000 人規模の「貧困問題」を慢性的に抱えている小さな村です。人口の 8 割が自給自足の農業に従事し、そのうちの半分以上が日雇い労働者として生計を立てています。当団体が支援を始めた 2020 年のコロナ禍では行動が制限され、農業以外の職業の選択肢が少ないセイチェレ村では、より脆弱な立場にある日雇い労働者は雇用先を見つけることができず、一部農民が飢餓を耐え忍ぶために窃盗が行われたという報告もありました。</p> <p>また、2020 年のセイチェレ村で実施した社会課題に関する住民向けアンケート/インタビュー調査では、セイチェレ村は、日雇い労働者問題、両親の子育て放棄による子ども達のアルコール・薬物乱用問題、生理用品不足による女子生徒の出席率/進級率の低さや中途退学の問題、性に関する知識不足による若年妊娠問題といった貧困問題に起因する諸社会課題を持つことが分かりました。セイチェレ村の貧困は、単に各家庭の収入が低いといった単一的な原因から生じているのではなく、学校環境や農業技術の不足、ジェンダーバイアスなど、複数の原因が複合して生じた社会課題とも言えることが分かりました。</p> <p>これらを踏まえて、当団体はこの「村おこし」事業を通して、セイチェレ村が慢性的に抱えている「貧困問題」及び「貧困問題に起因する諸社会課題」に対して、2021 年には「農業 × ジェンダー」、2022 年には「農業 × 教育 × ジェンダー」の多角的アプローチで取り組み、セイチェレ村の「貧困の負のサイクル」を断ち切ることを目標に掲げ取り組みました。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>ガーナ共和国セイチェレ村「村おこし」事業 2022 では、貧困問題及び貧困問題に起因する諸社会課題に「農業」「教育」「ジェンダー」の 3 方向からのアプローチで取り組み、団体のスローガンである Colorful Life For All のように、セイチェレ住民が自分らしい生活を送れるように、貧困からの脱却を目指しました。</p> <p>具体的な 3 方向からのアプローチとして、農業からのアプローチとしては、セイチェレ村農民の農業技術及び知識の向上を目指す「農業講習会事業」を実施し、人口の 8 割が占めるセイチェレ村の農家の収入向上を目指し、貧困脱却を目指しました。教育からのアプローチとしては、セイチェレの子供たちの社会的・職業的自立を目指す「キャリア教育支援事業」を実施し、貧困家庭で生まれた育った子どもたちが、貧困の負のサイクルに陥ることなく、経済的に自立できる職に就けるように支援しました。ジェンダーからのアプローチでは、理論的・実践的アプローチによる包括的な性教育でセイチェレ村の全女性のエンパワメントを目指す「性教育事業」を行い、子育てをする母親が子育てしやすい環境を整え、女子生徒生徒が生理で学校を休み、留年・退学していくことを防ぎ、貧困の負のサイクルを断ち切ることを目標にしました。</p>

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

【実施内容】

0. 住民説明会

第1回住民説明会では、今年度の事業内容を住民と共に策定するために2回に分けて開催しました。ワークショップを通じて意見交換を行い、住民のニーズに応じたトピックを抽出しました。説明会では、当団体の現地スタッフから説明責任、透明性の確保、持続可能性、公平性、地域密着を意識し、計画策定から決定まで複数回の住民説明会を実施しました。第2回住民説明会では、今年度の村おこし事業のハイライトである住民向けセミナーの事前予告を行いました。第3回住民説明会では、今年度の村おこし事業の総括を住民に報告しました。

1. 農業からのアプローチ（農業講習会事業の実施）

- ・ 村の農民を対象にした事前調査により、技術習得の要望の高かった作物（トマト、オクラなど）や栽培技術（農地、土壌、栽培管理など）に関する農業知識と技術を一般農家に指導できる人材（農業セミナーリーダー）を育成するため、村の有志農民を対象に農業講習会（座学および実技）を11回実施しました。講師にはガーナ政府の農業普及員を招きました。
- ・ その後、農業セミナーリーダーが村内の農家に農業指導を行えるよう、指導方法の習得を目的とした講習会（模擬セミナーの実施）を計12回実施しました。
- ・ 農業セミナーリーダーが住民向けに、ジャム作りセミナーを含む農業講習会の座学と実習を計19回実施しました。

2. 教育からのアプローチ（キャリア教育事業の実施）

- ・ 子供を持つ保護者や一般参加者を対象に、教育問題やキャリア教育に関する意識を確認するためにワークショップ形式の調査を実施しました。
- ・ 有志教員と共に「ViVID Teacher Association in Sekyere（以下VTAS）」という部会を立ち上げ、生徒、保護者、教員それぞれの課題を明らかにしながらキャリア教育セミナーの内容を検討しました。日本の文部科学省のキャリア教育ガイダンスを参考にし、オリジナルのキャリア教育カリキュラムを作成しました。
- ・ セイチェレ村にある学校5校（幼稚園・小・中学校一貫校4校・高等学校1校）全校の小学校1年生以上高等学校3年生までの35クラス全てで学生向けのキャリア教育セミナーを実施しました。
- ・ 保護者向けにはキャリア教育セミナーを計5回開催しました。

3. ジェンダーからのアプローチ（性教育事業の実施）

- ・ 教育アプローチで立ち上げた有志教員とのVTASの打ち合わせを2回実施し、学内での性教育のあり方について検討しました。
- ・ 各参加校の教員が自校で性教育を実施するためのセミナー内容や教材の検討・作成を行いました（計2回）。
- ・ VTASの教師と共に性教育座学セミナーを5校全校の幼稚園年長以上高等学校3年生までの全39クラスで実施しました。
- ・ 現地の仕立て屋と協力して、性教育の一環として生理用布ナプキン作りを5校全校の小学校4年以上の全22クラスで実施しました。
- ・ 一般住民向けには性教育座学と実習をそれぞれ5回ずつ実施しました。

(2) 実施成果：

0. 住民説明会

- ・ 住民の声を可能な限り反映した形で、住民のニーズの高い事業計画を作成することができました。
- ・ 第1回、第2回、第3回の住民説明会にはそれぞれ81名、204名、51名の参加者を得ることができました。

1. 農業からのアプローチ（農業講習会事業）

- ・ 住民有志から15名の農業セミナーリーダーを養成しました。
- ・ 土壌保全や灌漑設備、肥料の選定、土壌肥沃度、肥料散布技術、害虫予防、共生栽培、収穫後のロス防止、コンポストやジャムの製造など、住民のニーズに応じたセミナーを開催しました。計585名（累計）の住民が参加しました。

2. 教育からのアプローチ（キャリア教育事業）

- ・ VTASを設立し、地元の教師6名と共にセミナーの準備を行いました。
- ・ キャリア教育セミナーを学生及び保護者を対象に開催し、学生925名（出席率91.4%）と保護者241名が参加しました。

3. ジェンダーからのアプローチ（性教育事業）

- ・ 教員の性教育への理解と実施を促進するため、VTASの部会を設立し、5校から6名の教員が参加しました。これにより、性教育セミナーの実施が実現しました。
- ・ 性教育座学セミナーを学生及び一般住民を対象に開催し、学生1045名（出席率95.25%）と一般住民178名が参加しました。
- ・ 性教育実習セミナーを学生及び一般住民を対象に開催し、学生307名と一般住民76名が参加しました。

(3) 得られた教訓など：

農業講習会では、政府の農業普及員が派遣され、有志の農民から農業セミナーリーダーを養成し、彼らが住民に農業知識や技術を広めました。また、キャリア教育や性教育座学セミナーでは、現地 NGO の性教育専門家を招き、教師向けにセミナーを開催し、セイチェレ村の教育状況をよく知っている教師と協力して教材作成を行いました。さらに、性教育実践セミナーでは、現地の仕立て屋が布ナプキン制作技術を提供する中で性教育を行いました。このように、当団体外部の専門家や多様な関係者の支援を受けつつ、現地人材の潜在能力を最大限に活かし、現地住民による事業を開催することでより、現地の人々が主体的に行動できるような効果的な事業の実現が可能であることがわかりました。

自身のコミュニティの発展を願わない住民はいない一方で、コミュニティ開発のために活動していた住民はこれまで皆無でした。それは、住民たち自身が貧困の悪循環から抜け出すためにどのような行動をすれば良いのか理解できていなかったためと考えます。この村おこし事業では、住民自身が知識や技術を得て、実際に行動につなげることで、生活の質の向上が期待できるきっかけを作ることができました。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

- ・ 今回の活動実施においてはそれぞれのセミナー等で、アンケートを実施し、参加者の傾向やニーズ等の情報収集に努めました。これらを分析し、今後の活動に活かしていく予定です。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

- ・ 農業アプローチにおいては、参加者側からお揃いのTシャツを作成し、仲間意識の醸成をしたいという提案があり、それに応える形で、Tシャツの作成を行いました。これにより、セミナーリーダー達により一体感が生まると、同時により責任感をもって住民向けセミナーを開催しました。

(2) 活動の写真



農業講習会座学セミナーの様子



農業講習会実習セミナーの様子



農業講習会ジャム作りセミナーの様子



Sekyere Methodist 小学校のキャリア教育セミナーの様子



住民向けのキャリア教育セミナーの様子



性教育座学セミナー後の Sekyere Methodist 中学 2 年生のグループ写真



一般住民向け性教育座学セミナーの様子



Sekyere Kusi 高等学校における性教育実習セミナーで布ナプキンを制作している様子



セイチェレ住民向け性教育実習セミナーで布ナプキンを制作後のグループ写真

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

- ・ 経済的に不安を抱えることなく、1年間を通して安定的な事業ができました。JICA 職員からの提案でコミュニティ開発に必要な各種セミナーに参加し、PDM の作成方法や SHEP アプローチを学ぶことができました。

4. 【チャレンジ枠の案件のみご記入ください】チャレンジ枠の伴走支援制度等について

(1) チャレンジ枠で事業を実施した率直な感想を記載ください。

- ・ 現地通貨のレート変動したことで、当初計画していた支出計画より支出を抑えることができました。他方で、事業期間の制限や活動計画との連動から全ての予算を使用することができなかったことが、残念でした。

(2) 事業計画策定や業務進捗のモニタリング等の際に伴走支援者から受けた助言が本事業においてどのように役立ったか、具体的な事例があればご紹介ください。

- ・ 四半期ごとに活動報告や支出報告の提出、また伴走支援者からの助言があったことから、ペースを整えながら活動を実施することができました。

(3) 上記2点を踏まえ、団体の成長となった部分や活動の成果、本事業を通じた学びや今後の方向性について記載ください

本事業では、住民たちをプレイヤーとして参画させながら、貧困問題に多角的に取り組むことで効果的なコミュニティ開発を促進することを目指して取り組んできました。また、ガーナ共和国の外部機関との連携を通じて事業の質を向上させることができました。今後も外部機関との連携を継続し、事業を拡大・推進していきたいと考えています。

現地のガーナ人スタッフの積極的な参画と主体的な活動を促すために、彼らの意見を最大限に取り入れるようにしました。現場の状況に応じて判断を行ってもらい、彼らが能動的に活動できる環境を整えることを重視しました。また、現地人スタッフが苦手とする事務作業についても、辛抱強く指導し、作業方法を教えることで彼らが自ら作業を行える技術力を身につける支援を行いました。

これにより、現地のスタッフは自信を持って業務に取り組むことができ、以前の活動より効率的な活動が実現できました。また、彼らの参画や能力向上により、現地の習慣・文化や状況に合わせた柔軟な対応が可能となり、事業の成果を最大化することができました。

今後も、ガーナ人スタッフの能力開発や現地の状況への適切な対応を重視しながら、外部機関との連携を強化して事業に取り組んでいきたいと考えています。

以上